

越冬前生育量の確保のため 排水対策と適期は種の 徹底を！

長岡地域振興局農林振興部

麦作情報 No.1

令和8年9月7日
長岡農業普及指導センター

安定した収量を確保するためには、「越冬前の生育量確保」と「越冬後の適切な追肥」が重要です。

- 排水対策によって大麦の栽培の良し悪しが決まります。
- 適期は種により有効茎を確保し、越冬前の生育量を確保しましょう。
- 土壌処理除草剤で雑草対策をしましょう。雑草が多いと大麦に必要な肥料が吸収できなくなります。

1 排水対策で苗立ちを良好にしましょう

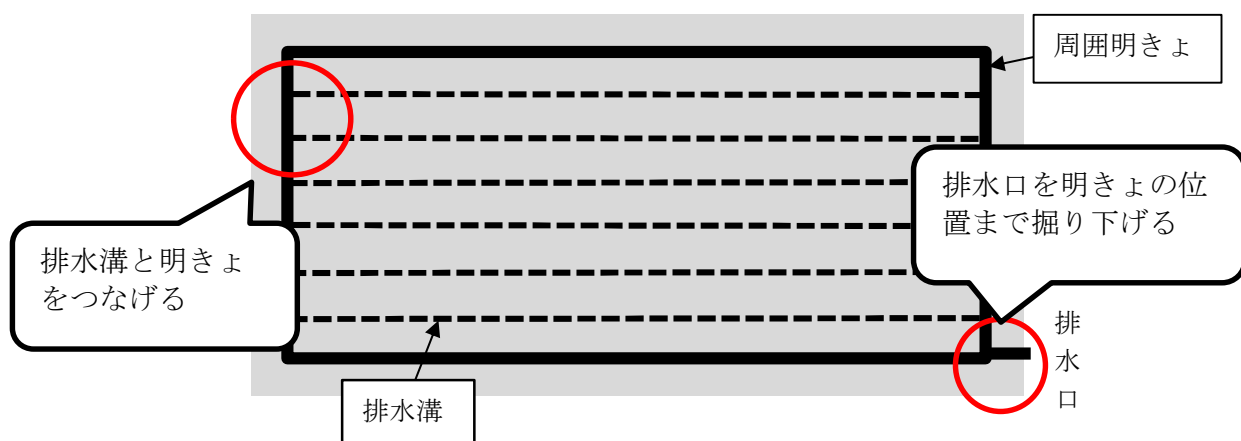
- 排水対策は、円滑な種作業の実施と湿害を回避するために重要な作業です。水稻収穫後、速やかに実施しましょう。

主な排水対策

	作業のポイント
周囲明きよ※ (地表排水)	ほ場の周囲に幅 30 cm、深さ 25～30 cmの溝を掘る。排水口を周囲明きよの深さまで掘り下げる。
排水溝※ (地表排水)	ほ場内に 3～5 m間隔で深さ 20 cm程度、幅 20～30 cmの溝を切り、必ず周囲明きよに接続する。
弾丸暗きよ (地下排水)	本暗きよと直交するように深さ 35～45 cmに施工する。施工間隔は、透水性の悪い土壌では 2～3 mとし、透水性の良い土壌では間隔を広げる。

※ 周囲明きよや排水溝は定期的に点検し、必要に応じて手直しする。

特に、消雪後は雪の重さで溝が崩れている可能性があるので速やかに点検を実施する。



周囲明渠+排水溝が施されている



土塊が地表排水を塞いでいる

2 基肥等は必ず施用しましょう

- 基肥は、越冬前の生育量を確保するために、必ず施用しましょう。
- 大麦は酸性に弱く、酸性土壌では生育不良となるため、**pH6.0～6.5**を目標に、土壌診断に基づき石灰質資材を施用しましょう(管内の多くは、酸度矯正が必要)

基肥等の施用量のめやす

	施肥量のめやす
石灰	消石灰の散布量のめやす：100～150 kg/10a
基肥	10a 当たり施用量(成分)のめやす：窒素 5～6 kg, リン酸 8～10 kg, カリ 3～4 kg

3 適期は種で苗立ち数を確保しましょう

- は種時期は秋雨の時期に当たるため、は種準備は早めに行いましょう。
- 越冬前の生育量を確保するためには、適期は種が重要**です。地帯別に応じた適期は種に努め、は種前には種機の調整を行いましょう。
- は種様式は、出芽・苗立ちや生育・収量の安定する**畝立てドリルまき**が望ましいです。
- は種様式に合ったほ場条件を確保し、適切なは種量に設定しましょう。

地帯別は種期と越冬前生育量のめやす

地帯別	平年根雪日数	は種期	越冬前生育量
長岡・三島・中之島地区(中雪地帯)	60～90 日	9 / 25～10 / 5	葉数 7 葉以上
和島・寺泊・出雲崎地区(少雪地帯)	60 日未満	9 / 25～10 / 10	葉数 5 葉以上

主なは種様式のは場条件やは種量など

	は場条件※ ¹	10a 当たり は種量 ※ ²	栽培上の特徴と留意点
畝立てドリルまき (一工程ドリルまき)	ほ場の排水が良く、土壌がなるべく乾いていること (砕土率 70% 以上)	7～8 kg	・耕うん～覆土まで一工程で完結できるため、作業途中の降雨の影響が少ない。 ・覆土されるため、 <u>土壌処理除草剤の散布により苗立ち後及び越冬後の雑草管理が容易になる。</u>
全面表面まき	排水が良く砕土率が高い(70%以上)場合	8～10 kg	・は種時の土塊の大きさ、は種後の天候等の影響を受けやすく、出芽・苗立ちは不安定。 ・表面まきのため、除草剤処理は雑草の生育に応じて、越冬後に茎葉処理剤を散布する。
	排水が悪く砕土率が低い場合	10～12 kg	

※¹ 砕土率は 2 cm 以下の土塊の重量割合

※² は種量は、は種時期が早ければ適正量の範囲内で減量、遅ければ増量する。

4 土壌処理除草剤で早期に雑草対策(畝立てドリルまきの場合)

- イネ科雑草が繁茂すると肥料分の収奪による減収や麦角病の伝染源となるため、土壌処理除草剤で早期に雑草の発生を抑えましょう。特に**スズメノカタビラ**には土壌処理除草剤の施用が効果的です。

※全面表面まきでは薬害が発生するため播種後の土壌処理除草剤は使えません。消雪後の茎葉処理除草剤の散布で対応しましょう。

5 秋期追肥を施しましょう

＜大麦の生育ステージと追肥時期＞



- 秋期追肥には越冬前生育の改善による穂数確保と増収の効果があります。積極的に施しましょう（下表参照）。
- 秋期追肥は、は種2週間後に窒素成分で2 kg/10a を上限として施しましょう。
- 11月に入ると気温が低下し肥効が低下するため、10月中に施しましょう。
- 排水不良ほ場では追肥の効果が低下するため、必ず排水対策を徹底した上で追肥しましょう。
- 生育量が過剰なほ場では耐雪性が低下する恐れがあるため減肥しましょう。

＜参考＞R6 年産大麦の秋期追肥の効果

秋期追肥	穂数 (本/㎡)	粗麦重 (kg/10a)	千粒重 (g)
なし	317	419	33.9
あり	400	488	33.7

（R6 年産長岡普及指導センター調査地点の収量調査より）

- 秋期追肥を実施してもなお湿害などにより葉の黄化が進む場合は、排水対策を実施した上で、追加で窒素成分1 kg/10a を遅くとも11月中旬までに施しましょう。ただし、過繁茂となっているほ場では原則として施用しないようにしましょう。



大麦に関する生育速報・技術情報等をメールで発信しています！

新規および追加で配信を希望する場合は、法人名または生産者氏名、メール配信を希望する旨を明記し、下記アドレスにメールを送信ください。

長岡地域振興局農林振興部：nqt111440@pref.niigata.lg.jp

秋の農作業安全特別運動を実施中。

作業前の周囲の安全確認とゆとりある作業を行いましょう。

『見直そう！ 作業手順と安全意識』